

(対象事業：1，地域の中核館として他館や他機関と連携して行う事業)

## 事業名：離島へき地文化施設等連携事業

事業者名：沖縄県立博物館

連携事業館名：北大東村立民俗資料館

住所：沖縄県那覇市首里大中町1-1  
TEL：098-884-2243  
FAX：098-886-4353  
HPアドレス：<http://w1.nirai.ne.jp/oki-muse/>



### ①施設概要

当館は、昭和21年に創立された、沖縄県の特徴ある歴史と文化に関する資料を収集して整理・保管しながら調査・研究を行い、その成果を展示する総合博物館です。展示室は、1階に歴史展示室、自然史展示室、2階は企画展示室と美術工芸展示室、中3階には民俗展示室があります。常設展示は「沖縄の自然・歴史・文化」をメインテーマにして、展示室を一巡することで沖縄の素顔がよく理解できるように工夫されています。

### ②事業の意図目的

平成13年度に、北大東村民俗資料館が開館し、北大東村の自然や暮らしについての資料が展示されており、島の芸術文化の拠点となっている。本館との連携において、共同で、展示会やアウトリーチ活動等を実施することによって、民俗資料館の展示活動の充実及び展示手法の工夫改善を図りつつ、北大東小中学校での当館学芸員による出前授業等によって、地域の芸術・文化の創造発展に寄与することを目的として本事業を実施する。

### ③事業概要

本館は沖縄県内唯一の県立博物館として、離島遠隔地域の郷土文化に対する意識の高揚と教育普及活動をおこない、地域の活性化を図るために、移動博物館、ビデオ上映会、文化財巡り、出前授業、黒糖づくり体験学習等の事業を開催した。また、北大東村民俗資料館を島の芸術・文化の拠点として充実させるための支援活動として、ボランティア養成講座の開催や教育普及書の作成をおこなった。

### ④事業の計画にあたり参考にした他機関の事業等

特になし、これまでの当館の活動の経験から実施した。

### ⑤広報の方法と関連印刷物

広報の方法 博物館報、インターネット、横断幕、看板  
関連印刷物 ポスター、チラシ、移動博リーフレット

### ④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 リーフレット、ワークシート、北大東の自然と文化ガイドブック  
作成した報告書等  
ビデオ（展覧会及びボランティア養成講座、出前授業の様子ビデオ撮影）

### ⑤参加者状況

参加者人数 延べ 494人

内 訳 展示会 344人 博学連携授業（出前授業）60人

文化財巡り及びボランティア養成講座40人 黒糖づくり体験50人

(1) 事業の実施状況について

①開催地募集

- ・前年度までに県内離島各市町村教育委員会あてに開催地募集を行う。

②開催地決定

- ・応募市町村の中から、開催地を決定する。(北大東村に決定)

③実施要項作成

- ・開催地の決定を受けて、開催期日及び展示会会場を決定し、実施要項を作成する。  
(期日＝11月19日～21日、展示会会場＝北大東村民スポーツセンター)

④事前打合せ(10月31日～11月1日)

- ・展示会場下見(面積、出入り口、分電盤及びコンセント位置、駐車場等)
- ・実施要項の説明
- ・作業日程及び役割分担
- ・開会式実施計画(村長、教育長、児童生徒代表のあいさつとテープカット)
- ・ボランティア養成講座・文化財巡り実施計画(村教育委員会が参加者を募集)
- ・博学連携授業(出前授業)打ち合わせ(北大東小中学校)

⑤資料梱包搬出作業及び輸送 10月18日～11月10日

- ・資料梱包 10月18日～10月19日
- ・資料搬出① 10月25日、午前9時～
- ・資料搬出② 11月1日、午前9時～
- ・資料輸送①(那覇～北大東) 10月31日～11月1日
- ・資料輸送②(那覇～北大東) 11月9日～11月10日
- ・会場搬入 11月11日～11月12日

⑥展示会場設営作業及び資料展示作業 11月13日～18日

- ・会場設営作業(展示壁面製作作業、照明器具設置)
- ・資料展示作業(恐竜・マンモス骨格標本組立、各分野資料展示)

⑦参加者のタイムスケジュール

○博学連携授業(出前授業＝大東諸島の地質と化石のレプリカづくり)

- ・北大東小中学校体育館(小学校4年～中学校3年、職員)

○移動博物館オープニングセレモニー(展示会)

- ・開会式(博物館職員、教育委員会職員、村長、教育長、北大東小学校5・6年児童、村議会議員)
- ・アトラクション(北大東幼稚園児による「恐竜体操」のゆうぎ)
- ・テープカット(村長、教育長、博物館館長、北大東小学校児童会代表)
- ・展示資料解説会(各展示室担当学芸員及びボランティアによる開会式参加来賓への展示資料の説明)

○黒糖づくり体験学習(北大東村民スポーツセンター前広場、午前9時～12時)

○村内幼児児童生徒の展示会見学(調整は学校と教育委員会で行う)

- ・村内保育園及び幼稚園(午前10時～11時)
- ・村内小学校(午前9時～12時)

・村内中学校（午後１時～３時）

○展示会の一般見学（19日～20日、午前９時～午後５時まで、入場無料）

○ボランティア養成講座（11月20日、午後１時～２時）

○文化財巡り・野外観察会（11月20日、午後２時30分～午後５時）

## （２）地域との連携について

沖縄県は多くの離島からなる島嶼県であり、それぞれの島々が、独自の自然環境のなかで、多様な文化を創造してきた。

特に、その中でも、大東諸島は、地理的・自然的環境や歴史的・文化的環境においても独自の道を歩んできた島だといえる。八丈島出身の人々と沖縄県内の人々が島の開発や開墾のために移住し、八丈文化とウチナー（沖縄）文化の融合した独特の文化を創り上げ、その文化は、今も脈々と受け継がれている。

県内離島へき地において、博物館資料の展示を中心に実施してきたが、今回は、村内の民俗資料館や学校との連携を図り、黒糖づくり体験学習などの関連事業も実施した。また、北大東村の民俗資料館の活性化を図るために、教育普及書「北大東の自然と文化ガイドブック」の作成と展示解説や資料館運営をサポートできる人材育成のためのボランティア養成講座を実施した。さらに、会場の設営から資料展示及び展示会の運営まで北大東村教育委員会と当博物館が協力して事業を実施した。

## （３）成果物について

○北大東村立民俗資料館教育普及書「北大東の自然と文化ガイドブック」

## （４）参加者の反応

### ①展示会

- ・村内の幼稚園や保育園の幼児は、自然分野の展示に興味を示し、特に、大型の恐竜骨格標本やマンモスの骨格標本に歓声をあげていた。
- ・村内小中学校の児童生徒は、授業の一環として、担任の教師に引率されて展示見学に訪れていた。当館が準備したリーフレットやワークシートなどによって、熱心に学習に取り組んでいた。
- ・村長や教育長はじめ、多くの村民が本展示会を見学した。特に、当地、北大東関連の資料には、当館学芸員に質問するなど、熱心であった。

### ②ボランティア養成講座・文化財巡り（自然観察会）

移動博物館開催に係わる行事として、11月20日の午後１時30分より、村立資料館大ホールにて、資料館ボランティア養成講座を開始した。講話内容は、島の活性化を図るひとつの方法としてのエコミュージアムの理念や島の地質や生物、資料館の展示等についての講話をスライドを使い１時間30分行った。（ボランティア養成講座）

その後マイクロバス１台と車２台に分乗して島内を移動し、野外観察学習に入った。観察地としては、まず大東神宮や赤池周辺での動植物観察を行い、神宮周辺の遊歩道をまわり、ここに生育する固有種のダイトウビロウ、ダイトウシロダモ、ダイトウセイシボクをはじめ、フカノキ、ヤブニッケイなどの石灰岩地に生育する植物観察を行う。次に島最大の池、大池に移動し、池を主な生息地としている水鳥の観察を行う。ここでは、カイツブリ、ダイサギ、コサギ、カワセミなどの野鳥が

見られた。島ではじめてカワセミを見た参加者が多く、驚いた様子であった。また、本来は砂浜海岸に生育するアダン林が、ここ大池では池の周辺に見られる大東特異な景観について確認することができた。その後、空港東側の海岸（沖縄海）に向かい、ここでは、岩盤のすきまにはえる大東固有のウスジロイソマツのほか、特異な分布域をもつアツバクコ、ボロジノニシキソウなどを岩礁性の植物観察する。海岸での植物観察のあと、島南側に所在し、国指定天然記念物に指定されている「長幕の植物群落」を観察する。20mくらいの崖地に生育する特異な植物群落の中には、岩壁に通常砂浜海岸で見られるハマオモト群落を認めることができ、その特異性を確認することができた。ここには他に小笠原諸島に分布し、海南島にその近縁種が見られるヒメタニワタリも生育しているが、攪乱をさけるため立ち入りは今回中止した。また、隣接する瓢箪池では、国内ではここだけに生育するアツバアサガオの他、湿地性植物であるヒトモススキ、クロミノシンジュガヤなどを観察する。ここから、村指定天然記念物である中野のビロウ林をまわり、島に自然（動植物）について野外学習を実施した。参加人員40名で、特にこれまで来島する観光客を受け入れバスガイドとして活躍している村の担当者からは、動植物に関して今回名前を知ることができ、とてもよかったとの感想があった。（文化財巡り＝自然観察会）

### ③参加者の感想（アンケートから抜粋）

#### ○展示会

- ・ 離島の子どもたちはなかなか見ることができないので、とても良い企画だと思う。  
（40歳代、女）
- ・ なかなか見に行けないので、とても良かった。今後も続けて次世代の子どもたちにも見せてほしい。（30歳代、女）
- ・ とてもすごかったです。いろんなコーナーがあったので楽しかった。（中学生、男）
- ・ 博物館とかなかなか行けないので、こういう機会があってとても良いと思います。  
（中学生、女）
- ・ いろんなどうぶつのほねやかせきがあった。じぶんの村にいどうはくぶつかんがきて、とてもうれしかった。（小学生、男）

#### ○博学連携授業（出前授業）

- ・ 化石のレプリカ作りは初めてだったのでとても楽しかったです。2個つくって両方ともきれいにできていたのでとても良かったです。これまでは化石にあまり興味がなかったけど、このレプリカ作りをしてみて興味が出てきました。とても楽しかったです。（中学1年男子）
- ・ 化石のレプリカ作りは初めてでしたが、今回いろいろな化石のレプリカがつくれてとても良かったです。小学生以来に触った粘土でとても楽しかったです。私はアンモナイトとサメの歯のレプリカをつくりました。完成したときにはとてもうれしかったです。またつくってみたいです。（中学1年女子）
- ・ レプリカ作りと聞いてとても難しいと思っていたけど、意外と簡単でした。初めてで緊張したけど、よい体験ができてとても良かったです。先生の話聞いて地球ができた頃の様子、大昔の星の光が今見えていることなどがわかりました。少し難しか

ったけど、地球のこと、宇宙のこと、星のことがよくわかりました。私たちのために、化石のレプリカづくりや地球のことを教えてくれてありがとうございました。

(中学2年女子)

- ・化石のレプリカ作りを初めて体験しました。私は恐竜の爪のレプリカをつくりましたが、作り方は案外簡単で2個つくってしまいました。できあがったものを見ると、しっかりと型が浮き上がっていて成功だったので良かったです。又機会があればいろいろなレプリカをつくってみたいと思います。先生のお話を聞いてみて、地球が今から46億年前にできたことを知りました。そして火星にかつて海があったことも初めて知りました。たくさん話を聞いて難しい部分もありましたが、レプリカ作りはとても貴重ないい経験になりました。ありがとうございました。(中学2年女子)
- ・化石のレプリカ作りをして、アンモナイト、恐竜の爪・ふん、サメの歯の化石などを初めて見て触れることができました。ふんが化石になることを初めて知りました。また、初めてレプリカ作りをして粘土をこねたり、石こうを流し込んだりしてとても楽しかったです。宇宙についての話や、地球が誕生したときの話を聞いて、自分たちが今見ている星には何百万年も前のものがあるということを初めて知りました。こんな話を聞く機会がないので、とてもいい経験になりました。また機会があったらレプリカ作りをしたいです。僕たちのために、レプリカ作りや、地球の話をしてくれてありがとうございました。(中学3年男子)
- ・初めてレプリカ作りをしました。思っていたより簡単で作りやすかったです。レプリカの材料もたくさんあって、自分の好きなものを2つ選んでつくりました。石こうを流し込むときはドキドキしたけれど、できあがって固まった石こうを型から取るときにはとても楽しかったです。今度時間を作って色を付けたいです。地球の話はほとんど初めて知ることばかりでとてもびっくりしたことが多く勉強になりました。とてもいい体験やとてもいい勉強になりました。本当にありがとうございました。(中学3年女子)

#### (5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

県内の離島各市町村には、それぞれの地域に、文化センターなどの博物館相当の施設が建設され、独自の活動を展開している。しかし、離島へき地のこれらの施設は、人材の確保が困難な場合も多く、活発な館活動が難しい面も見られる。今回の北大東村での事業においては、地域の人材の掘り起こしや教育普及書の作成等によって、当地の民俗資料館の活性化を図る効果が得られたものと考えている。

また、この事業を通して、豊で貴重な自然と独自の文化を持つ「北大東島全体が博物館である」という、エコツーリズムの視点からの啓蒙活動を展開することができ、地域の発展に多少なりとも寄与できたものと考えている。

今後も、県内唯一の県立の博物館として、芸術・文化の拠点形成が図れるよう、それらの施設との連携によって、当館学芸員の専門的な知識を効果的に活用し、地域の館の活動を支援し、地域の芸術・文化の拠点として充実発展できるような事業展開を図っていきたい。